

# 犬と飼い主が力を合 わせて競技に挑戦。 一緒に頑張ることで 絆がより強固に

## 〈ドッグスポーツ〉

暑い真夏を除いて一年中、週末や祭日に何らかの大会が開催されているので、愛犬を連れて見学し、臨場感や迫力を味わってみることをお勧めする。初心者のための講習会やイベントも開かれているので、ぜひ参加してみよう。

### ●障害を克服するアジリティー

馬術競技をヒントにしてイギリスで生まれたアジリティー。エスコートする人の指示のもと、犬がコースに設けられたさまざまな障害物を順番にクリアしながら駆け抜け、正確性とスピードを競う。跳ぶ・くぐる・登る・すり抜ける・止まるの動作をする障害物で構成され、ハードルのバーを落としたら、途中で飛び降りたら減点。リミットタイムをオーバーすると失格となる。

人間の走り高跳びに似た「ハードル」では、小型犬のクラスだとバーの高さが二五〜三五cmだが、大型犬になると五五〜六五cmにアップする。「ロングジャンプ」は、いわゆる走り幅跳び。「タイヤ」はタイヤの空洞をサーカスの輪くぐりのように跳ぶ。「トンネル」は、両端がオープンになったものと、途中

から布のトンネルになるものとあり、それをくぐる。

細いスロープを登り、歩道橋を渡って反対側から降りる「ドッグウォーク」、人間のシーソーと同じ形状の足場が不安定な板の端から端へと歩く「シーソー」、アルファベットの「A」の形に組まれた傾斜面の板を駆け登り、降りてくる「Aフレーム」、等間隔に一列に並ぶ八〜二本のボールの間を、右に左に蛇行しながら進む「スラローム」、テーブルに登らせ、その上で五秒間静止する「テーブル」などもある。

競技には純血種でもミックス（雑種）でも出場でき、犬種も問わない。犬の体高（地面から肩までの高さ）によりクラス分けされており、三五cm未満はスモール、四三cm未満がミディアム、四三cm以上がラージ。難易度も、犬のレベルによって「ジャンピング一度／二度」などと分かれているので、自分の愛犬の年齢、体型、能力に適した種目・レベルを飼い主が選んで、エントリーすればいい。スポーツは心身の健康と楽しみのために行うのだから、無理はしないことだ。

犬と暮らす楽しみのひとつは、ジョギングやサイクリング、ハイキングなど、アウトドアと一緒にエンジョイできること。家ではダラッとしていた犬も、風を切って疾走し跳躍しているときは野生を漲らせ、キリッとして美しい。欧米では盛んなドッグスポーツが、日本でも九〇年代からテレビなどで紹介され、愛好者を増やしている。

人間と犬がチームを組んで気持ちのひとつにして取り組むところが醍醐味だ。手に汗を握りながら大会に臨んだり、それに向けて練習するなかで、愛犬との信頼関係もいっそう深まることだろう。



やるには、「八ヶ岳ワンワンパラダイス（山梨県）」「ランランふいーるど」（福岡県）、「蔵王ドッグランド」（宮城県）などに出向かないと難しい。または、愛好家同士、おカネを出し合っただけで用具を購入し、公園などで合同練習しているグループもあるようだ。

アジリティーの主催団体には、財団法人ケンネルクラブなどがある。

☎〇三―三二五―一六五六

HP <http://www.jkc.or.jp/>

### ●華麗な技のフリスビードッグ

パートナーである人が投げた、高速で回転する円盤のディスクを追って走り、空中で口にくわえるフリスビードッグ。犬がキャッチした距離を競う「ディスクスタンス系」と、五枚のフリスビーを使い、自分で用意した曲のついで曲芸のように犬を動かす「フリーフライト系」の種目がある。人の体を踏み台にしてジャンピングキャッチし、宙返りするなど、華麗でダイナミックだ。

本部が新潟県の日本フリスビードッグ協会では、毎年秋にその年の日本チャンピオンを決める「ジャパンファイ

ナル」大会を開き、アメリカで行われる世界選手権にも参画している。小型犬大会、七歳以上が参加するシニアドッグ大会、ビギナー大会なども開催。フリスビードッグは道具がディスク一枚なので、手軽に始められるのがいい。ディスクは、柔らかい素材でくわえたとき口を傷めない犬専用のものを。子犬や小型犬には直径約一〇cmのミニフリスビーや布製、ゴム製を使う。犬には狩猟本能があるので、追いかける遊びは満足感があるはず。主人がボールを投げると目を輝かせて取ってくるような犬は、ラクにマスターできるだろう。犬が興味を示さないようなら、ディスクにドッグフードを入れて食べさせると大好きになってくれるそうだが、「地面に落ちてから拾うことはできません、空中でパクッとキャッチするのは難しいみたいです。手にもっているディスクを犬がくわえる瞬間にパッと放して、ちょっと空中に浮いている時間をつくるようにし、その時間を少しずつ長くしていくようにします」

パートナーの投げ方が悪ければ、犬もうまくとることができないので、ど

今まで数多くの犬の訓練を手がけてきた訓練士・松田亜紀さんによると、「ポーターカラーやジャックラッセルテリアのように、身が軽く俊敏で積極的な犬種がアジリティーには向いている」という。個体差もあって、一日でできるようになるコもいれば、高所恐怖症だったり運動音痴で習得に一年かかるコもいるそうだが、飼い主が愛情を込め、根気よくトレーニングすれば、どんな犬でも上達する可能性はある。

ただ、アジリティーの練習でやっかいなのは用具が必要なこと。本格的に